

馬城会・懇親会も4年振り

相馬高校での馬城会総会と会員発表終了後、直ちに松川浦「なぎさの奏 夕鶴」のバスやマイカーに分乗し、会場に移動した。会場「夕鶴」は2021（令和3）年2月13日と2022（令和4）年3月16日に相馬地方を襲った大地震で被災し、この春リニューアルオープンしたばかりである。

懇親会は4時過ぎから始まり、進行は、相馬支部事務局長の齋川一朗^(※1)氏と相馬高校の木幡修三^(※2)先生が行った。

開会は、荒安明副会長が宣言。あいさつは加藤憲郎新会長。次に、村山正之前会長が高らかに乾杯の音頭をとった。35名が参加、待ちに待った懐かしい顔合わせ、久しぶりの歓談、酒間に、美しく美味しい料理が次々と運び込まれた。

しばらくして、自己紹介の時間。各支部ごとに前に出て並び、

京浜支部 ⇒ 仙台支部 ⇒ 福島支部 ⇒ 原町支部 ⇒

鹿島支部 ⇒ 新地支部 ⇒ 相馬支部 ⇒ 相馬高校 の順で一言ずつアピールした。

懇親会参加者の半数近くが地元相馬支部でした。

ここで相馬地方以外の遠路から参加した方々のみ載せてみる。

京浜：荒安明支部長、矢吹茂^(※3) 副支部長、
岡崎明義氏、鈴木龍郎^(※4) 氏。

仙台：高橋和裕副支部長。

福島：岩井雄一支部長、森重勝^(※5) 副支部長。

森氏からは、運営に関わっている福島の特別養護
↑あちらこちらで歓談の輪



老人ホーム、ロング・ライフが8月24日、第1回厚生労働大臣表彰優良賞を受賞、代表で受賞式に出席し、岸田総理あいさつ同席の写真も紹介されました。

また、原町支部長の平間勝成^(※6)氏からは、『節電を 誰も言わない この猛暑』の名川柳一句が披露されました。

結びに、佐々木政喜副会長が、再会を約束し、名残惜しい懇親の会を締め、夕闇せまりつつある時刻に帰途に着きました。

(※1) 高普第19回、昭和42（1967）年卒。中村出身。相馬商工会議所、相馬和田観光苺組合組合長。

(※2) 高理第14回、昭和60（1985）年卒。山上出身。相馬高校教諭：平成19（2007）年～平成27（2015）年、令和5（2023）年～、数学。
馬城かわら版第187号「三世代職員」。

(※3) 高普第28回、昭和51（1976）年卒。中村出身。能美防災（株）

(※4) 高普第23回、昭和46（1971）年卒。中村出身。日本画家。

(※5) 高普第13回、昭和36（1961）年卒。中村出身。（社福）ライフ・タイム福島理事・事務局長。

(※6) 高普第22回、昭和45（1970）年卒。原町出身。元大甕小学校長。